

添付資料 目次

別紙 1	【新】養成する人材像とディプロマ/カリキュラム/アドミッション・ポリシーの関連図・・・2
	【旧】養成する人材像とディプロマ/カリキュラム/アドミッション・ポリシーの関連図・・・3
別紙 2	白金校地 本館 9 階平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

養成する人材像とディプロマ/カリキュラム/アドミッション・ポリシーの関連図

【別紙1】
新

【養成する人材像】

情報科学の急速な技術革新に対応できる**数理的理解**に基づいた応用力・問題解決能力を身につけ、**自らの専門性を広げていく**ことができる人材

人とAIが高いレベルで共存する近未来において重要となる**高度情報通信技術(高度ICT)を利活用し、国際的なリーダーシップ**を身につけた人材

多様な学問領域の存在を意識し、明治学院大学の教育理念である“Do for Others(他者への貢献)”を情報科学の技術や知識を駆使して実現することができる**高い倫理性**を持った人材

【ディプロマ・ポリシー】

〔知識・理解〕

[DP1]

深層学習の次に来る情報処理パラダイムや量子情報といった、将来の技術革新・変化にも対応できる**数理(数学)の基礎学力**を身につけている。

[DP2]

情報科学の手法(アルゴリズム)の背後にある**数学的原理**を理解し、人文科学や社会科学など**隣接領域への応用例**などの知識を有しながら、**与えられた具体的な問題を、専門的なデータ分析やプログラミングの能力を用いて解決**できる。

〔汎用的技能〕

[DP3]

情報社会の問題に対して理解があり、情報科学および情報倫理の融合領域で**国際的なコミュニケーション力**により幅広くリーダーシップを発揮できる。

〔態度・志向性〕

[DP4]

情報科学の単なる技能・技術の修得のみでなく、**ELSI(Ethical, Legal and Social Implications/Issues: 倫理的・法的・社会的課題)に配慮**して、本学の教育理念“Do for Others(他者への貢献)”を情報科学の技術や知識によって体现できる。

〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

[DP5]

Project Based Learning (PBL)科目や卒業研究によって養われた**仮説形成能力と問題解決能力**によって、起業や転職を含めた将来のキャリアパスを自ら意識できるエンジニア、研究者、情報技術管理者といった専門職を目指す。

【カリキュラム・ポリシー】

[CP1]

学科カリキュラムの基幹となる帰納的・演繹的思考の基礎をなす**数学力**を身につけるため、1年次には入試形態の違いによる学力差も考慮した少人数制の**基礎数学**演習科目を配置する。また、1年次前期の「数理と情報」科目では、専任教員を中心としたオムニバス形式の授業を導入し、**情報技術への広い理解と情報科学における数理の果たす役割について俯瞰的に学び**、将来のコース選択の参考とする。

[CP2]

2年次には情報数理系「基礎科目群A」と情報システム系「基礎科目群B」と大きく2つに分けた科目群を配置する。これら基礎導入科目群によって、**情報科学分野の学修で必要とされる数学**を意識させつつ、コース選択ガイダンスなどの実施と合わせ、3年次におけるコース選択の助けとする。

[CP3]

2年次までに身につけた数学を現実のツールとして活用し、**幅広い情報科学分野の基礎概念を理解**できる力を養うため、3年次以降はコース制を採用し、「数理・量子情報」、「AI・データサイエンス」、「情報システム・セキュリティ」の3つの科目群を配置し、選択したコースに応じた科目群から、コース要件科目を含め集中的に科目選択を行う。

[CP4]

教養分野については、「キリスト教の基礎A・B」といった本学の教育理念を伝え継承する科目に加え、**専門分野への架橋に有用な科目**をバランスに配慮して科目指定や推奨を行い、世界のどこにおいても活躍できる**英語コミュニケーション能力**を身につける英語科目を必修科目として履修させる。

[CP5]

他者への貢献のための情報技術という意識を持たせるため、**情報倫理や情報セキュリティ**に重点を置いた科目を継続的に配置する。

[CP6]

社会と情報科学とのつながりや、起業や転職を含めた将来のキャリアパスを自ら意識させるため、**情報科学と人文科学や社会科学との接点や融合**を意識した科目、キャリア形成科目などを配置した「社会と情報」科目群を設ける。この科目群では、既存文系学部からの提供科目を積極的に受け入れるとともに、他学部にも科目提供を行う。

[CP7]

現実的な社会問題に対し、**自ら仮説を形成する力(アブダクション)**、もしくは**迅速的な問題を解決する力**を養うため、PBLおよびアクティブラーニングを中心とした少人数の演習科目を配置する。

[CP8]

学修成果の評価にあたっては、**明確な成績評価基準**を策定した上で個々の科目のシラバスに明示し、筆記および実技の試験に加え、授業で課すレポート、発表(プレゼンテーション)、卒業研究などを含む多面的な評価を実施する。また、学修管理システム(LMS)の学修サポートフォロ機能を活用し、学生自身が学修成果を自己判断できる環境を整えつつ、授業評価の結果と合わせて、適切な教育指導および教育課程の評価・検証を行う。

【アドミッション・ポリシー】
(求める人材像)

[AP1](a)

現代の先端情報技術を理解し、情報数理学部における学びに取り組む前提として、知識・技能、思考力・判断力・表現力などにおいて、高等学校などで修得すべき基礎的な能力を身につけている。

[AP1](b)

本学の教育理念である“Do for Others(他者への貢献)”の意義を理解し、情報技術を通じてこの理念を社会へ還元するための学修意欲を備えている。

[AP1](c)

情報技術を社会における幅広い問題の解決手段として応用し、活用しようとする強い意欲を持っている。

【養成する人材像】

情報科学の急速な技術革新に対応できる**数理的理解**に基づいた応用力・問題解決能力を身に付け、**自らの専門性を上げていく**ことができる人材

人とAIが高いレベルで共存する近未来において重要となる**高度情報通信技術(高度ICT)を利活用し、国際的なリーダーシップ**を身につけた人材

多様な学問領域の存在を意識し、明治学院大学の教育理念である“Do for Others(他者への貢献)”を情報科学の技術や知識を駆使して実現することができる**高い倫理性**を持った人材

〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

〔知識・理解〕

〔汎用的技能〕

〔態度・志向性〕

【ディプロマ・ポリシー】

[DP1] 深層学習の次に来る情報処理パラダイムや量子情報といった、将来の技術革新・変化にも対応できる**数理(数学)の基礎学力**を身につけている。

[DP2] 情報科学の手法(アルゴリズム)の背後にある**数学的原理**を理解し、人文科学や社会科学など**隣接領域への応用**などを含めた具体的な問題を、専門的なデータ分析やプログラミングの能力を用いて解決できる。

[DP3] 情報社会の問題に対して理解があり、情報科学および情報倫理の融合領域で**国際的なコミュニケーション力**により幅広くリーダーシップを発揮できる。

[DP4] 情報科学の単なる技能・技術の修得のみでなく、**ELSI(Ethical, Legal and Social Implications/Issues: 倫理的・法的・社会的課題)に配慮して**、本学の教育理念“Do for Others(他者への貢献)”を情報科学の技術や知識によって体现できる。

[DP5] Project Based Learning (PBL)科目や卒業研究によって養われた**仮説形成能力と問題解決能力**によって、起業や転職を含めた将来のキャリアパスを自ら意識できるエンジニア、研究者、情報技術管理者といった専門職を目指す。

【カリキュラム・ポリシー】

[CP1] 学科カリキュラムの基幹となる帰納的・演繹的思考の基礎をなす**数学力**を身につけるため、1年次には入試形態の違いによる学力差も考慮した少人数制の数学基礎演習科目を配置する。また、1年次前期の「数理と情報」科目では、専任教員を中心としたオムニバス形式の授業を導入し、**情報科学における数理の果たす役割について俯瞰的に学び**、将来のコース選択の参考とする。

[CP2] 2年次には情報数理系「基礎科目群A」と情報システム系「基礎科目群B」と大きく2つに分けた科目群を配置する。これら基礎導入科目群によって、**情報科学分野の学修で必要とされる数学**を意識させつつ、コース選択ガイダンスなどの実施と合わせ、3年次におけるコース選択の助けとする。

[CP3] 2年次までに身につけた数学を現実のツールとして活用し、**幅広い情報科学分野の基礎概念を理窟**できる力を養うため、3年次以降はコース制を採用し、「数理・量子情報」、「AI・データサイエンス」、「情報システム・セキュリティ」の3つの科目群を配置し、選択したコースに応じた科目群から、コース要件科目を含め集中的に科目選択を行う。

[CP4] 教養分野については、**専門分野への架橋に有用な科目**をバランスに配慮して科目指定や推奨を行い、世界のどこにおいても活躍できる**英語コミュニケーション能力**を身につける英語科目を必修科目として履修させる。

[CP5] 他者への貢献のための情報技術という意識を持たせるため、**情報倫理や情報セキュリティ**に重点を置いた科目を継続的に配置する。

[CP6] 社会と情報科学とのつながりや、起業や転職を含めた将来のキャリアパスを自ら意識させるため、**情報科学と人文科学や社会科学との接点や融合**を意識した科目、キャリア形成科目などを配置した「社会と情報」科目群を設ける。この科目群では、既存文系学部からの提供科目を積極的に受け入れるとともに、他学部にも科目提供を行う。

[CP7] 現実的な社会問題に対し、**自ら仮説を形成する力(アブダクション)**、もしくは**汎用的な問題を解決する力**を養うため、PBLおよびアクティブラーニングを中心とした少人数の演習科目を配置する。

【アドミッション・ポリシー】
(求める人材像)

[AP1](a) 現代の先端情報技術を理解し、情報数理学部における学びに取り組む前提として、知識・技能、思考力・判断力・表現力などにおいて、高等学校などで修得すべき基礎的な能力を身につけている。

[AP1](b) 本学の教育理念である“Do for Others(他者への貢献)”の意義を理解し、情報技術を通じてこの理念を社会へ還元するための学修意欲を備えている。

[AP1](c) 情報技術を社会における幅広い問題の解決手段として応用し、活用しようとする強い意欲を持っている。

白金校地 本館9階平面図

【別紙2 白金校地本館9階平面図】については、
安全上の理由により非公開とする。